

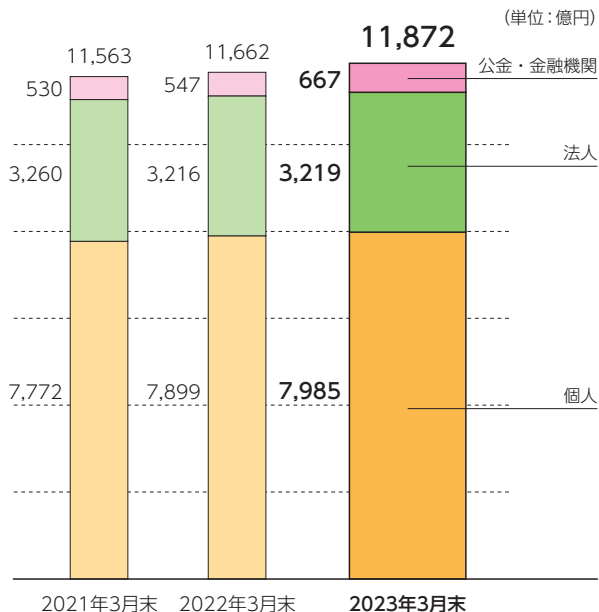
業績ハイライト

ここでは、主要な項目についてご説明いたします。詳細な計数資料等につきましては、当金庫のホームページに掲載している「資料編」をご覧ください。

預金残高 (譲渡性預金含む)

1兆1,872億円

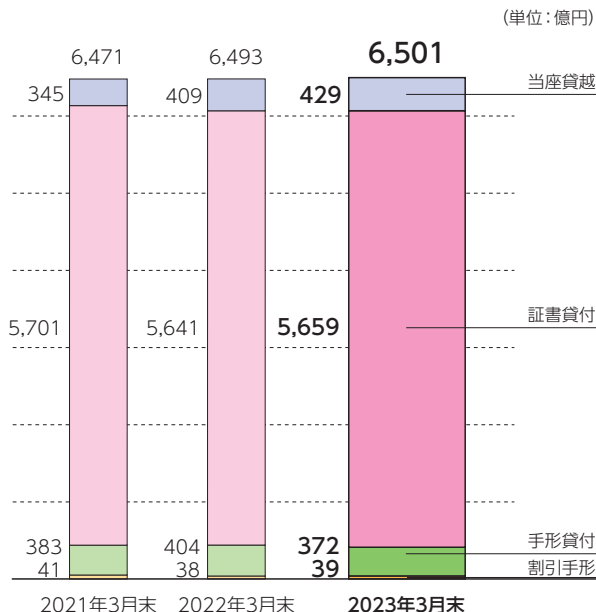
期末残高は、前期末に比べ209億円増加の1兆1,872億円となりました。



貸出金残高

6,501億円

期末残高は、前期末に比べ7億円増加の6,501億円となりました。

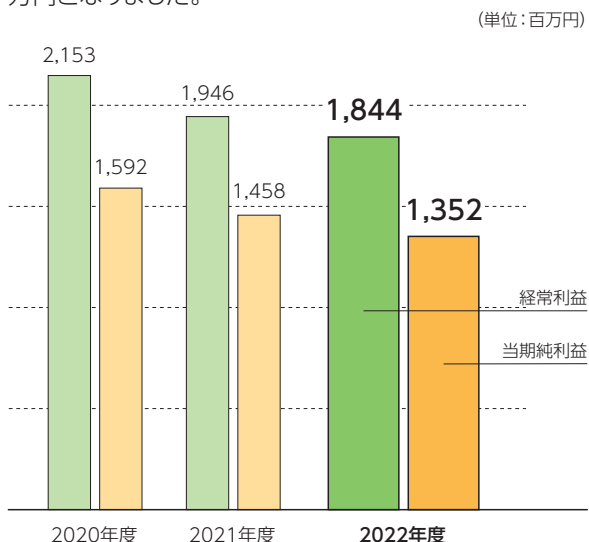


損益の状況

経常利益 **18億44**百万円

当期純利益 **13億52**百万円

経常利益は前期比1億1百万円減少し18億44百万円、当期純利益は前期比1億5百万円減少し13億52百万円となりました。



自己資本の額・自己資本比率

自己資本の額 **830**億円

自己資本比率 **17.62**%

自己資本の額は830億円、自己資本比率は17.62%となりました。



適正な資産の自己査定に基づく償却・引当等を実施し、
資産の健全化を進めております。

不良債権額及び不良債権比率

不良債権比率 **1.56%**
 保 全 率 **89.04%**
 引 当 率 **70.10%**
 実質の
 不良債権比率 **0.17%**

※実質の不良債権比率＝(不良債権額－保全額)÷総与信額

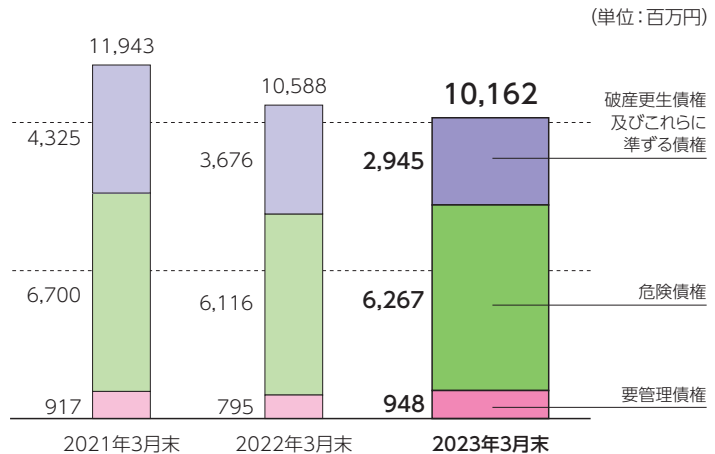
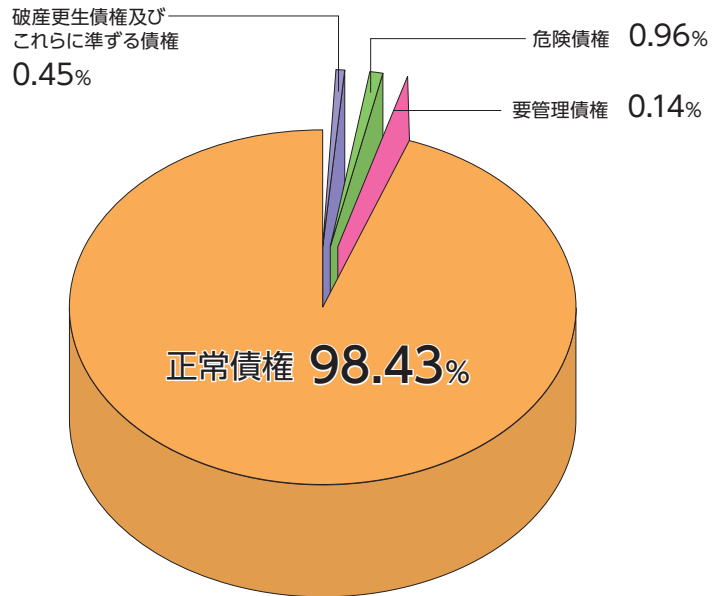
『金融機能の再生のための緊急措置に関する法律』(金融再生法)に基づく開示債権の状況について、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」の不良債権額は101億62百万円で、不良債権比率は1.56%となりました。

この開示債権は、全てが回収不能な債権ではなく、このうち担保・保証等で64億37百万円、さらに貸倒引当金で26億11百万円が保全されております。結果、未保全額は11億13百万円となっております。

実質の不良債権が、総与信に占める比率は0.17%と引き続き低率を維持しております。

また、会員勘定は823億37百万円で資産の健全性維持に対する備えは十分にできております。

今後とも、お取引先の経営改善・再生支援に努め、資産内容の一層の健全化を図ってまいります。



金融再生法開示債権の推移

(単位: 百万円)

区 分	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末
破 産 更 生 債 権 及 び こ れ ら に 準 ず る 債 権	4,325	3,676	2,945
危 険 債 権	6,700	6,116	6,267
要 管 理 債 権	917	795	948
不 良 債 権 額	11,943	10,588	10,162
正 常 債 権	636,306	639,917	640,970
合 計	648,249	650,506	651,133
不 良 債 権 比 率	1.84%	1.62%	1.56%

※当金庫は部分直接償却を採用しておりません(ただし、合併により引き継いだ一部貸出金を除く)。
 ※百万円未満は切り捨て、小数点第3位を切り捨てて表示しております。